2章　文型2

問題

【1】

A.

全訳

人が本当に偉人であるかどうかを試す第一の尺度は，その人の謙虚さであると私は信じる。私が謙虚さというのは，その人が自分の力に疑念を持つとか，自分の意見を述べることをためらうとかということを指すのではなくて，自分のできることと言えることと，自分以外の人々の言行との間の関係を正しく理解することを指すのである。

B.

全訳

はじめて英国に工場が作られた時，都会に住む人々がそこで働くことができるように，工場は都会に建設された。ⓐ工場が大きくなり，そこに働く男女の数が増えるにつれ，はじめは他の所から都会へ通っていた労働者が仕事場の近くに住めるように家を建てねばならなかった。

家屋の建設者たちは，工場労働者の必要をたねに金を儲けようとして家を建てた。ⓑ新しい労働者のために新しい家を建てる必要があったのだから，この仕事はやろうとすればうまくやれたかもしれない。しかし，家はできるだけ安く，また密集して建てられたので，家の列の間には狭い道かごく小さな裏庭しかなかった。家屋建設が費用をかけずに行われた理由の一つは，土地所有者が自分も金儲けをしようとして，建築用地に高い値段をつけたことであった。その後，家を建てた人たちは，その家を所有することとなったが，高い家賃をとりながら，家を良好な状態に保つために何かをすることはめったになかった。ⓒかくて工場の周囲にはおそるべきスラム街ができ，そこでは人々は埃にまみれて貧しい生活を送っていた。

【2】

解答

（1） for

（2） get〔become〕angry

（3） 男性と女性とを区別するのを嫌がる反面で，区別を望みもする点。(30 字)

別解　女性を差別するような言葉を排斥する一方で，女性を特別扱いすることを求めている点。(40 字)

（4）「**全訳**」の下線部ⓓ参照。

（5） スウェーデンの例は，世界一般の女性の境遇とはかけ離れているということ。(35 字)

別解　スウェーデンの例は，世界全般の女性の立場に鑑みるに，特殊なものだということ。(38 字)

（6） career

（7）「**全訳**」の下線部ⓖ参照。

（8） 世はコンピューターの時代だが，女性の方がその方面では優れているのと，企業が合議制の経営方針に移行する中にあって，女性の方がチームワークに長けているため。(76字)

解説

（1） hope は，①「～を願う」：他動詞　②「～を求める」：自動詞（＋ for）

（2）「(顔が) 赤くなる」は，① 恥じて赤面する　*cf.* blush（≠ brush）

② 怒って紅潮する　*cf.* flush [flʌ́ʃ]　≠ flash [flǽʃ]

（3） on the other hand とある場合，その前と後に対照的な内容が述べられていると考えるのが普通で，ここでも例外ではない。第１段落第５文（ℓ.7　they（＝ women）say …），第６文（ℓ.8　they（＝ women）say …）と，第２段落第１文（ℓ.10　women say …），第２文（ℓ.11　They（＝ Women）say …）の内容をそれぞれまとめればよい。

（4）

◇ whether <u>it is</u> the mother or the father <u>who</u> should …《it is ～ who … の強調構文》

◇ paid leave「有給休暇」

◇ look after ～「～の世話をする」

（5） a long way ＝ far であるが，far は〈空間〉的に「離れている」という本義から転じて，〈時間〉や〈程度〉等に関しても，比喩的に「離れている」の意で用いられる。ここでは，「女性の置かれている社会的境遇の『良好さ』」という〈程度〉に関して述べたものと考える。

（6） この段落では，第１文（ℓ.18）の jobs，pay，第３文（ℓ.20 ～）の companies，management，jobs からわかるように，「仕事」について述べている。そこで，「仕事」に関する形容詞として，第１段落第４文（ℓ.4）にある career を持ってきて，<u>career</u> ladder とする。

（7）

◇ At last, because：because 節（従属節）があることから，At last の後には主節が省略されていると考え，その内容がわかるような訳にする。省略されている主節は，直前の文から考えて，At last <u>the future is on the side of us〔women〕</u>, because … のようになる。

○ so far「これまでは；今までのところ」

○ be on the side of ～「～に味方して；～に有利な」

（8） 設問文にある「未来は女性のものだ」という言葉は，本文中の英語で言うと，第４段落第１文（ℓ.23）の the future may be on the side of women に相当する。その直後で How is this so? と問題提起がされているのだから，その後の Firstly 以下，および第５段落（ℓ.27）Secondly 以下の２ヵ所がその「理由」を述べている箇所と判断し，そこを制限字数内でまとめる。

全訳

「女性は何を求めているのか？」これは偉大な精神分析医ジグムント・フロイト（1856 ～ 1939）によって発せられた問いである。フロイトの時代，大半の女性が求めていたのは，おそらくもう少しの自由であったろう。というのも，大半の女性は依然として家庭での生活に縛られていたからだ。今日，女性が求めているのはまったくの別物だ。女性たちは，教育や

職業における全面的向上の機会，それに男性との完全なる平等を求めている。“chairperson”の代わりに“chairman”，あるいは“headteacher”の代わりに“headmaster”と言っているのを耳にしたら，極めて多くの女性が怒るであろう。というのも，女性たちが言うには，我々の使う語彙というのはとても大事だからだ。もしchairmanやheadmasterと言ったりしたら，それは，男性だけが会議を司ったり学校の頭となるべきだと暗に言っている事になる，という言い分である。

その一方で，女性たちは，もしなりたければ母親となれる選択の自由がほしい，と言っている。職場にも自宅にもいられるくらい雇用形態は柔軟であるべきだ，と言うのだ。女性たちの言うスウェーデンの制度はどうだろう？ 赤ん坊が生まれたら，男性でも女性でも父親休暇が取れる，というものである。ⓓ新生児の面倒を見るために有給休暇を取るべきは母親かそれとも父親かを，夫婦で決めることができるのだ。スウェーデンの父親の多くも，この考えが気に入っている。というのも，新しく生まれた息子や娘との絆を作る絶好の機会が与えられるからだ。

しかし，このスウェーデンの例は，世界中の大半の女性の経験とは，かけ離れている。世界の大半の女性は，極めて公然と，最悪の仕事と最低の賃金とを与えられているのだ。西欧においてさえ，女性たちは，仕事の階段で同一の地点に到達するのにさえ男性の同僚よりも優れていなければならないのよ，とこぼす。また，多くの会社には「ガラスの天井」があって，中間管理職からトップの仕事に進めず，それはほとんど全部男性によって占められている，ともこぼす。

しかし将来は，男性にではなく女性にとって有利かもしれない。どうしてそうなのか？第１に，我々は今やコンピュータの時代に生きており，多くの女性は，男性よりもコンピュータの扱いに長けている事が判明しつつある。逆に，体力を必要とする仕事は斜陽で，今日失業の影響を最も受けている集団は，若くて何の技能も持ってない男性である。

第２に，今日企業は，競争型の経営よりむしろ合議による決議制へと移行しつつあり，女性は，依然個人主義的で競争的になりがちな男性よりも，チームワークに優れている事が判明しつつある。

将来は女性に有利であるというのが本当なら，多くの女性はこう言うかもしれない。「ⓖやっと私たちの時代ね。だって，今まで歴史はずっと男性に有利だったんですもの！」

【3】

ポイント

第４文型と第５文型を使った頻出英作文にチャレンジしよう。それほど難しくないので全て暗記してしまうくらいに復唱すること。

解答・解説

（1） Please pass me the salt.〔(S)VOO〕

（2） You must always keep your teeth clean.〔SVOC〕

（3） They elected Stephen captain of their team.〔SVOC〕

◇たった１つの地位や特殊な目立った職務を表す名詞が補語になる場合には冠詞を付けないことが多いと言われる。

（4） Will you get me a ticket for the rock concert?〔SVOO〕

（5） The noise almost drove me crazy.〔SVOC〕

◇ drive O C「O を C の状態に追いやる」

（6） Too much coffee will keep you awake.〔SVOC〕

（7） An airplane crashed into the village and a lot of villagers had their houses burned down because of the explosion.〔SVOC〕

（8） It is said that the special relationship between the company and its employees has made Japan what it is today.〔SVOC〕

◇ what S is「今の S の状態」 *Ex.* what he is（今の彼の姿）

整理しよう

前置詞のマスター１ “as”

ポイント

毎回主要な前置詞の演習をしていく。今回は前置詞 as。

解答・解説

（1） As a child, I was not interested in literature at all.

◇ as a child「子供の頃」

（2） Just as you, I also had a hard time of it.

◇ just as you「ちょうどあなたのように」

（3） More and more people are making use of the Internet as a means to share〔of sharing〕information.

◇ as a means to *do*〔of …ing〕「～する手段として」

（4） Smart phones not only serve as phones, but also have many of the capabilities of a regular PC.

◇ serve as A「A として役立つ」

（5） A lot of species are endangered as a result of environmental destruction.

◇ as a result「結果として」

【4】

ポイント

これまで扱った５文型の様々な論点をここで総復習してみよう。

解答・解説

a OSV 「自然を愛する者を，お返しに自然は愛してくれる。」

b (S)VOO「机の上にあるその手紙を速達で彼に出しておいてください。」

c (M)VS 「鍵をくわえた犬が走り去った。」

d SVCO 「私たちは，すべきだったことをやらずにおいておくことがよくある。」

e SV(M)C「彼はどこから見ても紳士に見える。」

○ every inch は副詞で「どこを見ても」の意味。

（1） **a**　SVO

「その泥棒はドアに指紋を残した。」

behind は副詞。

（2） **d**　SVCO

「この映画は世界中でそれを観た人々を幸せにした。」

SVOC の O が長いために後置された形。

（3） **c**　MVS

「その都市の中心には自然豊かな大きな公園がある。」

場所を表す副詞句が前置されて MVS となる。lie は「横たわる」などの意味になる自動詞で lie-lay-lain と活用する。

（4） **e**　CVS

「人々がラジオを聴くのを楽しむ時代は過ぎ去ってしまっている。」

The days are gone. の Gone が文頭に来たため CVS となる。

（5） **b**　SVOO

「彼がそんなにひどいことを言ったということが私たちを大変驚かせた。」

that 節が名詞節となって主語になっている。

（6） **a**　OSV

「まず第一に私たちはそれを実行に移すべきだ。」

この that は接続詞ではなく代名詞であることに注意。We should put that into practice. の目的語 that が前置された形である。put A into practice「A を実行に移す」

（7） **a**　SVO

「私の生徒が理解したかどうかわからない。」

if S V は名詞節であり「S が V かどうかということ」という意味になる。

（8） **c**　MVS

「嵐の後には静けさが来る。」〔「今日の一言」の英文参照のこと。〕

（9） **d**　(S)VOC

「眠っている犬は寝かしておけ。（寝た子は起こすな；やぶへびは禁物）」

let は使役動詞であり，lie が目的格補語の原形不定詞である。

【5】

ポイント

5 文型と関連した重要動詞などを扱う演習問題である。

解答・解説

（1） **c**

SVOC「誰でも自分の荷物が一番重いと思う。」

‘O is C’，すなわち ‘his own sack is the heaviest’ の関係を考える。

（2） **b**

SV「どんな紙でも結構です。あなたのメールアドレスを書き留めたいだけなので。」

S will do. で「S で結構です。」という意味になる。

（3） **b**

SVC「メアリはどう？彼女は近頃疲れているみたいだけど。」

seem C で「C のように思われる」という意味。通常は進行形にしないで使う動詞の１つ。

（4） **c**

SVO「コーヒーを飲みながらその問題について議論しよう。」

discuss は他動詞で「～について議論する」という意味。‘discuss about the matter’ とはならないことに注意する。speak は他動詞の場合「（言語など）を話す」の意味のためここでは合わない。

Ex. He can *speak* English. また，talk と look は原則として自動詞である。

（5） **d**

MVS「この洗濯機はどこか調子が悪いように思われる。」

‘There is 構文’ の is が seems to be になったと考えればよい。

（6） **c**

SVO「私は彼を説得してお金を貸してもらった。」

talk は一般に自動詞であり，talk about A（A について話す）や，talk with A（A と話をする）などと用いられるが，他動詞として talk A into doing（A を説得して～させる ＝ persuade A into doing）や，talk A out of doing（A を説得して～をやめさせる ＝ persuade A out of doing）のように使用される場合もあることは重要。

（7） **c**

SVC「たくさんのお客さんが来たとき，その予備の部屋が大変役に立つとわかった。」

S ＝ C となることに気が付けばよい。

prove (to be) C ＝ turn out (to be) C「C であるとわかる」

（8） **c**

SVOO「あなたは彼に借りているお金を返すべきです。」

owe O_1 O_2「O_1 に O_2 を負っている」the money と you の間に which が省略されていることより **b** は不可。**a** は意味的におかしい。**d** は borrowed from なら可能である。

（9） **c**

SVOC「医学研究は以前よりはるかに長い人生を可能にしつつある。」

render O C で「O を C にする（ ＝ make O C）」

(10) **d**

OSV「私がどんなに苦しんだのか誰にもわからない。」

tell は can と共に第３文型で用いられると「わかる」という意味になる。

Ex. You *cannot tell* what will happen tomorrow.　１章【4】（8）も参照のこと。

【6】

ポイント

前置詞と副詞を区別する問題である。

一般に前置詞と呼ばれる語は副詞の意味を兼ね備えており，その区別を知らないと文型を取り違えたり，誤訳につながったりすることが多い。

例えば，get over A「A を乗り越える」という場合の over は前置詞であるから，She got over the difficulty. は第 1 文型〔SV〕であり，the difficulty を代名詞に置き換えると，She got over it. となる。他方，take over A「A の後を継ぐ」という場合の over は副詞であるため，She took over the business from him. は第 3 文型〔SVO〕であり，the business を代名詞に置き換えると，She took it over from him. と語順が変わる。

解答

a，**b**，**d**

解説

a「私たちはその申し出を断った。」
down は副詞であるため文の要素とならず，the offer は目的語となる。the offer を it で置き換えると，We turned it down. となる。

b「彼はその電気をつけた。」
on は副詞であるため文の要素とならず，the light は目的語となる。the light を it で置き換えると，He turned it on. となる。

c「彼女は友人たちに助けを求めた。」
turn to A for B「B を求めて A に頼る」この to は前置詞であり，her friends を代名詞にしても She turned to them for help となる。

d「彼女は黒の長いコートを着た。」
on は副詞。*cf.* She put it *on*.「彼女はそれを着た。」

e「スティーブンはその丘を上がった。」
go は自動詞であることから自明と思われるが，up は前置詞である。

今日の一言

After a storm comes a calm.
「嵐のあとには静けさが訪れる。」
After a storm という前置詞句が前置されて，MVS という構造になっている。
「どんなにひどい嵐であっても必ず過ぎ去って穏やかな晴れ間がやってくる」と述べるこのことわざは高校 2 年生である君たちにも十分に示唆深いものであろう。ただ日本語訳で「雨降って地固まる」というように解釈する人もいるようだ。

添削課題

全訳

目は会話において，極めて重要な役割を果たしている。誰が誰を見つめているのか，どんなふうに見つめているのか，どれくらいの間見つめているのか。

視線を合わせることがまったくなければ，あるいはほとんどなければ，人に話しかけることが難しいこともある。電話の会話の中には，この理由で意志の疎通が困難になることがよくあるのだ。しかし①相手がこちらを避けようとしているような視線を送ってきたことがわかれば，あるいはあまりにもきつく見つめたり，まばたきをまったくせず見つめてみたりすることによって，こちらを威圧しようとすれば，とても居心地が悪く感じることだろう。

視線を合わせることの許容されうる総量というものは，文化によって，かなり違っているのだ。誰が王様を凝視することがあるのだろうか。誰が誰をじろじろ眺めることがあるのだろうか。あなたが映画俳優や有名人をじろじろ眺めることはあるかもしれないが，相手があなたに同じ視線を送り返すことはないだろう。

②私達は話をする時に，どのように，かつ，どこを見つめるかを正確に習得していなければならない。なぜなら，視線の使い方が不適切だと，私達が伝えようとすることすべてが，台無しになってしまうからだ。自分では誠実なつもりで発した言葉でも，胡散臭い視線を投げかけて発したら，誰をも納得させることはできないのだ。

解説

①構造は以下の通り。

ℓ.5

if you perceive the kind of eye contact
　(which) the other person provides you with
　as being evasive

or

if he or she seeks to dominate you
　by insisting on { too much direct / and / (even) unblinking } contact,

you will feel very uncomfortable

◇ perceive ＝ become aware of through one of the senses, especially that of sight

◇ the kind of eye contact (which) the other person provide you with ____ as being evasive

○関係代名詞 which (that) の省略

○先行詞は the kind of eye contact

○これは a kind of eye contact が，関係詞節の限定により，the kind of eye contact ～ となったと考える。したがって「～のアイコンタクトの種類」は誤訳で，「～のような（～の類の）アイコンタクト」が正しい。the kind〔type；sort〕of … which〔that〕～で「～のような…；～の類の…」を押さえておくとよい。

○ the other person「相手」(「２人の中の一方の人」という意味なので，文脈によって対応する日本語は異なる)

◇ as (being) evasive

○ evasive = intended to avoid or escape something

cf. evade = escape or avoid

Ex. He always evades the issue when we talk about it.

(あいつはその話になるといつもお茶を濁す。)

ℓ. 6 ◇ seek to *do* = try or want to *do*

◇ dominate = have a very strong influence over

e.g. dominate (over) others by force of money (金の力で他を圧する)

◇ insist = keep firmly to some demand, some statement, or some position

◇ direct = have no compromising or impairing element

ℓ. 7 ◇ unblinking「まばたきもせずに」*cf.* blink = shut and open the eyes quickly

◇ contact = eye contact

◇ uncomfortable = not physically comfortable; uneasy; awkward

②

ℓ. 11 ◇ learn = gain knowledge of or skill in (something) through study or experience or by being taught; become aware of by information or from observation

cf. know = be aware of as a result of observing, asking, or being informed

※ learn は「知る」，know は「知っている」と処理するのが基本。この区別は重要。

◇ to use the eyes inappropriately is to spoil whatever we might intend to say … 視線の使い方が不適切だと，私達が伝えようとすることすべてが台無しになってしまう。

○不定詞は動的・一時的・未来的であるので，'to 不定詞 is to 不定詞' という構造では「～すれば，…することになる」という意味合いになる。(ただし，必ずこういう訳し方を用いなくてはならないということではない。)

Ex. To see is to believe. (見れば信じるようになる。)

Seeing is believing.

(見ることは普通，信じることだ (過去においてもそうだった)。)

※動名詞は，静的・通時的・過去的

ℓ. 12 ◇ inappropriately *cf.* inappropriate = not appropriate in a particular situation

⇔ appropriately *cf.* appropriate = suitable or right for a particular situation or purpose

◇ spoil = damage the qualities of

◇ whatever we might intend to say (名詞節)

○ whatever = everything or anything that

○ might は以下のような副詞節・名詞節・形容詞節中で，可能性を表す際に用いられる。本問の might はⓒにあたる。

ⓐ「様態」

Ex. My wife and I separated in late December and, as you might expect, I had a very difficult January.

（妻と私は去る 12 月に別れ，お察しの通り，１月は非常につらい思いをしました。）

ⓑ「比較」

Ex. It happens more often than you might think.

（それは君が考えている以上の頻度で起こる。）

ⓒ「提言・希望」

Ex. Amanda suggested that we might work together.

（アマンダは我々が一緒に仕事をしてはどうかと言った。）

ⓓ「目的」

Ex. I let her into the house so that she might call a cab.

（私は彼女がタクシーを呼べるように家の中に入れた。）

ⓔ「譲歩」

Ex. Odd as it might seem, he hadn't been worrying until recently.

（奇妙に思えるかもしれないが，彼は最近まで心配していなかった。）

◇ a statement（which）you regard ☐ as sincere

○ statement ＝ an expression of an opinion, belief, point of view, etc.

○ sincére ＝ free from pretence or deceit in behavior or feelings; genuine and honest

ℓ. 13 ◇ accompanied by untrustworthy look：a statement you regard as sincere を修飾

○ accompany ＝ ① go with ② appear or be provided with something else, as an addition or explanation

○ untrustworthy ＝ unable to be trusted

○ look ＝ a glance; appearance

e.g. a questioning look（不審そうな目つき）

give him a dirty look（彼を非難の目で見る）

◇ will：習性，一般的傾向を表す。

◇ convince ＝ cause to believe firmly in the truth of something; persuade to do something